

3 「地域の安全」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.69 点であり、基準年調査より 0.13 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 5 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「30～39 歳」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。

○ 令和 5 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 5 のとおりでした。

表 5 「地域の安全」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 5	R 5-H31
県計		3.82	3.69	▲ 0.13
性別	男性	3.84	3.70	▲ 0.14
	女性	3.80	3.68	▲ 0.12
年代	50～59 歳	3.84	3.68	▲ 0.16
	60～69 歳	3.80	3.59	▲ 0.21
	70 歳以上	3.91	3.76	▲ 0.15
職業	自営業主	3.94	3.72	▲ 0.22
	会社役員・団体役員	3.85	3.62	▲ 0.22
	常用雇用者	3.83	3.69	▲ 0.15
	60 歳以上の無職	3.86	3.69	▲ 0.17
世帯構成	夫婦のみ	3.86	3.72	▲ 0.14
	2 世代世帯	3.81	3.68	▲ 0.13
子の人数	1 人	3.80	3.62	▲ 0.18
	2 人	3.85	3.69	▲ 0.16
居住年数	20 年以上	3.83	3.68	▲ 0.14
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.75	▲ 0.12
	沿岸広域振興圏	3.82	3.54	▲ 0.28

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 5 のとおりであり、年代別「60～69 歳」、職業別「自営業種」、「会社役員・団体役員」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」において低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - (ア) 自然災害の発生状況
 - (イ) 犯罪の発生状況
 - (ウ) 地域の防犯体制（防犯パトロール、街頭防犯カメラなど）
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の項目を比較すると、「社会インフラの老朽化（橋、

下水道など)」において、実感が横ばい、上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。

- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること（大雨が増加していると感じ不安など）」、「犯罪の発生状況に不安があること（犯罪被害を受けたこと、不審者情報など）」、「地域の防犯体制に不安があること（夜間が怖いと感じる、交通違反、不法投棄など）」及び「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること（道が狭い、街灯が足りないなど）」であると推測されます。

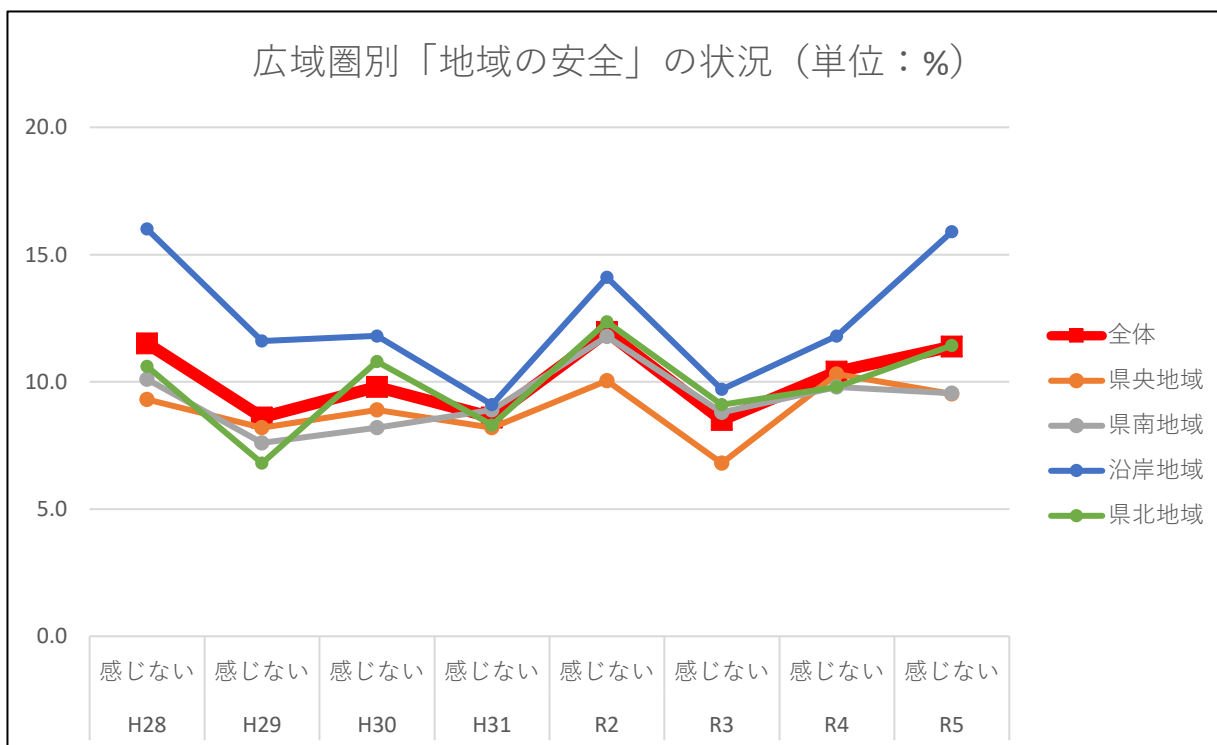
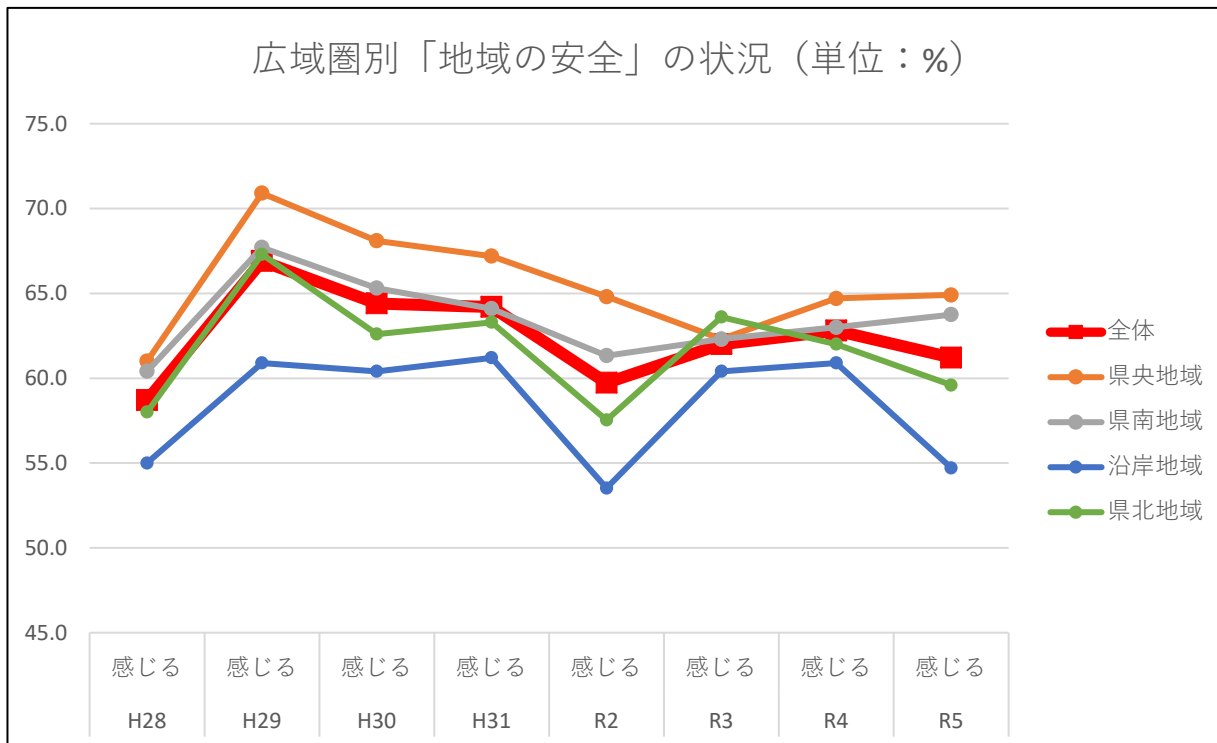
③ 継続して低値で推移している属性の要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して低水準（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

○「地域の安全」に係る主な意見

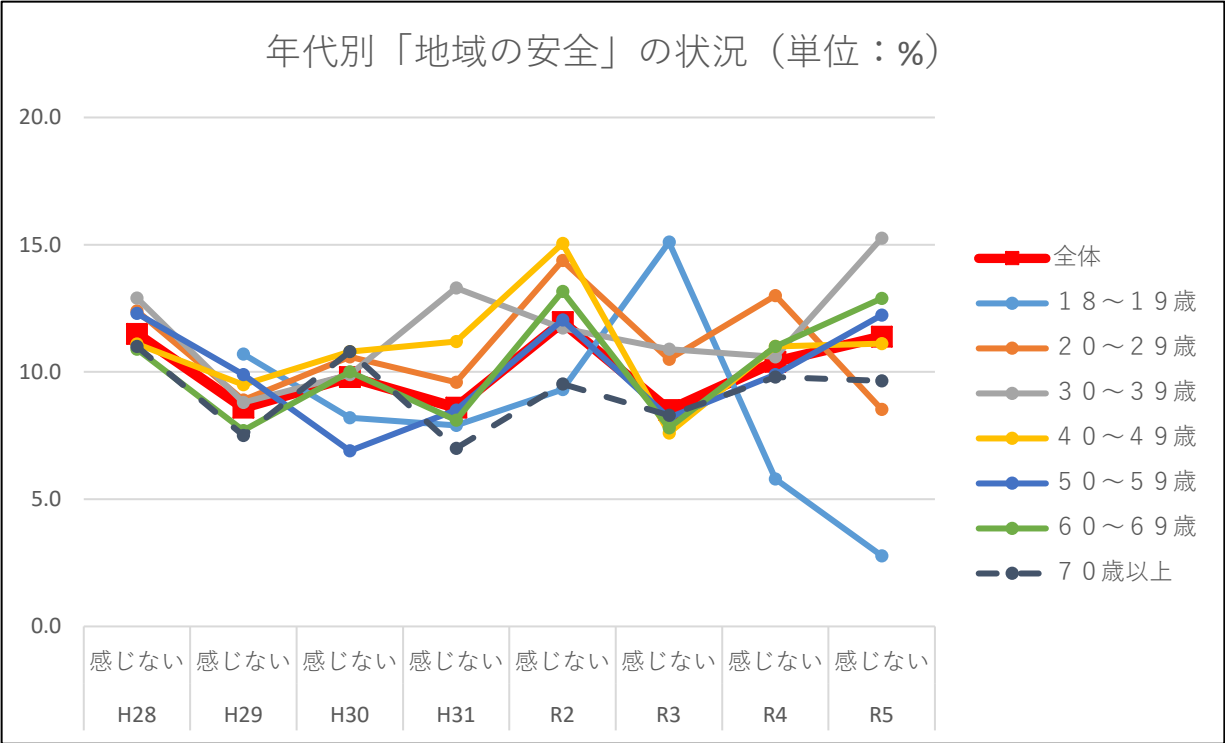
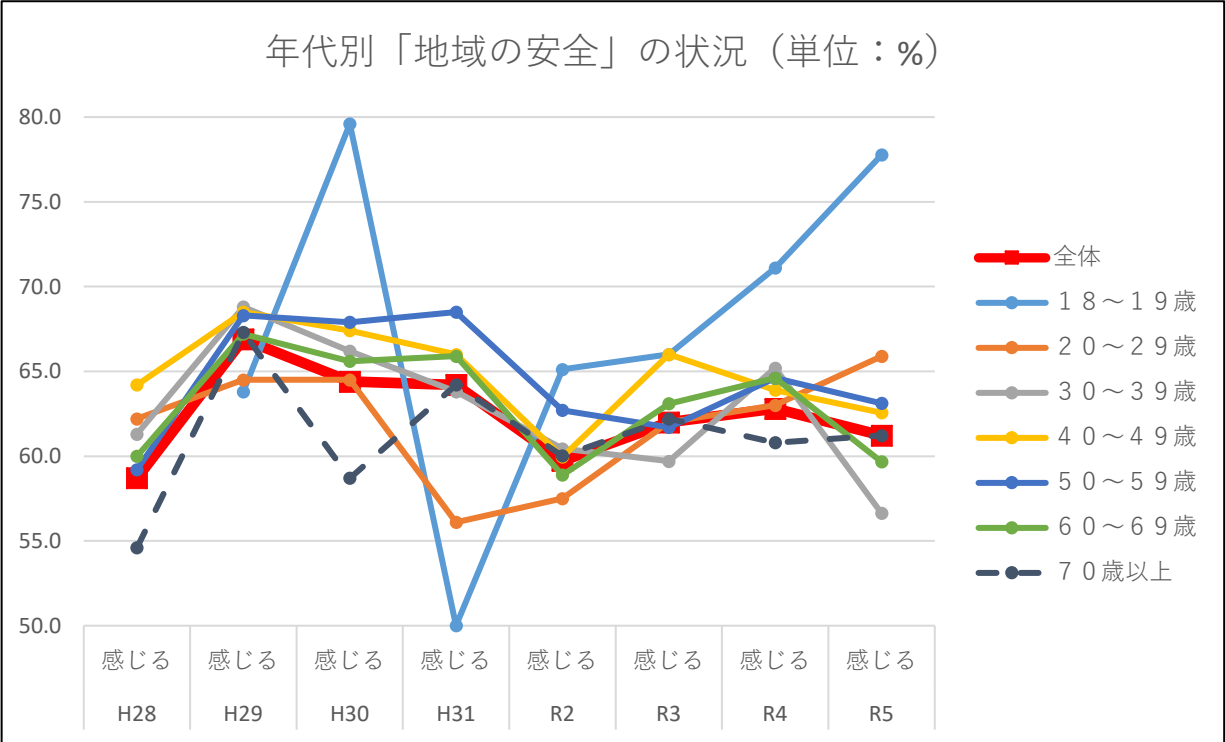
No.	意見内容	発言者	区分	発言部会
1	問題意識になるのですけれども、去年の地域の安全の場合には、1位が交通事故、2位が自然災害で、犯罪というのは上に来ていなかった、トップではなかったのです。下のほうだったのです。今回は、自然災害は1位なのですけれども、犯罪が2位に来て、3位、防犯体制も来ていて、去年と比べるとちょっと傾向が変わっているなということで、このテキストベースの自由記載のほうを見れば何か分かるのかなと思ったのですが、何か大きな事件があったとかでもなかったもので、この違いは何なのかなというのをちょっと今少し頭で反すうをしているところです。	和川委員	意見	第2回
2	自然災害のところでちょっと私あと思ったのは、資料7－2の183ページのところです。上位3項目には入らないのですけれども、9番と10番と13番、これがいずれも17.6%で同率4位に入っているのです、3項目。これ大きくくりにいうと、自然災害に対する行政の対応の問題についての項目のようにくくれるかなと思って見ていました。その後、自然災害への警戒感というか不安感というか、そういうものが結構出てきているのかなと。現に自然災害があったということではないにしても。	谷藤委員	意見	第2回
3	不審者情報の話。今子供が学校に通っていると、親の携帯に同報通知来るのですよね。だから、一斉に広がるのです。私は、もう子供は学校へ行っていないから分からないけれども、ある層には一斉に広がっていて、それは部会長からもお話あったとおり、警戒を呼びかけるということではあるのだけれども、やっぱり来れば心配になりますよね。それが頻繁に来るとなると、ちょっと頻度は私も分かりませんが、やはり心配になってくるだろうとは思っています。 自然災害のほうも、具体的に被害が起きているわけではないのだけれども、さっきの千島海溝沖地震の被害想定もそうなのですけれども、起こるかもしれないこと、来たらこれだけのことが起こるかもよということを言われると、やっぱり不安になるわけです。 そう思うと、情報と、あと不安感というのかな、幸福感の裏返しかもしれないかもしれませんが、私らは幸福感を問題にしているので、現に被害に遭っていないからいいでしょうということではないのです。やはり安心感、それがさらに多分幸福感までいけばいいのでしょうけれども、そういったことは非常に重要で、そうすると情報の出し方、自然災害であれ、犯罪であれ、情報の出し方、あるいはその後始末。台風であれば、通り過ぎればみんな分かりますけれども、不審者情報は後始末がないのです。その後どうなったのだろうと、安全になったのかしらと。分からないのです。この辺が、だから不安感に注目して見たときには、結構重要なポイントかもしれないです。	谷藤委員	意見	第2回
4	例えば横ばいの方もかなりいろんな不安を書いていらっしゃって、例えばざっと見る感じでも3分の1、犯罪と交通と自然災害と、やはりコロナもありますけれども、結構大きく分けると、どういうところに皆さんが不安を感じていらっしゃるのかというのが見えてくるなという気がしております。 何が言いたいかといいますと、こうしたデータの的には、確かに実感が低下した人の回答というところからのことになるのですけれども、先ほど和川委員もおっしゃったとおり、こうした具体のといいますか、多様なところをどういうふうに報告書というのか、これをどういうふうに後で残していくかというのは重要かなと思っています。 この中でも、まさに先ほど若菜委員もおっしゃっていました大雨、川ですとか水害というのは、ちょっと前回申しましたけれども、こういったところが懸念を抱いていらっしゃったか、地域の生活の上で、というところは何かに残せないかなというふうには思っていました。	山田委員	意見	第2回

「地域の安全」の圏域と年齢のクロス



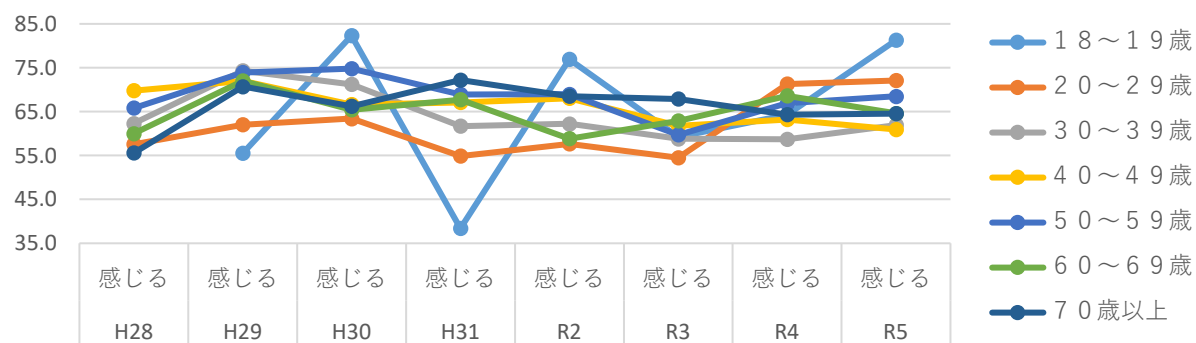
注 「感じる」は、「感じる」と「やや感じる」を合計した割合

注 「感じない」は、「感じない」と「あまり感じない」を合計した割合

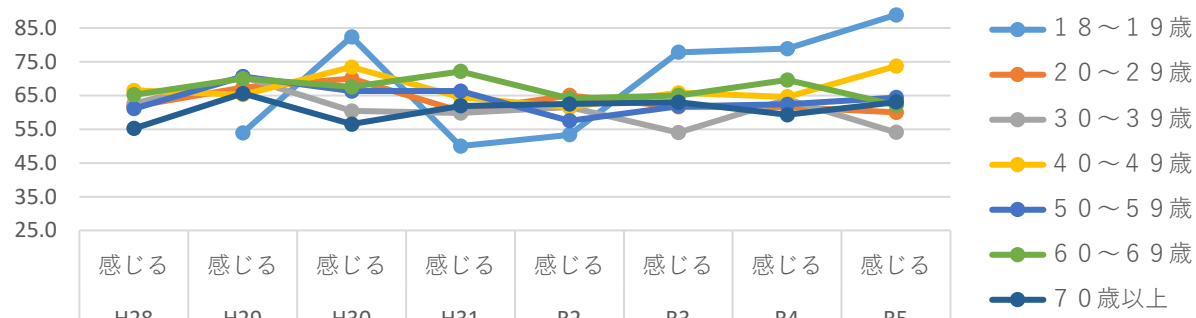


注 「感じる」は、「感じる」と「やや感じる」を合計した割合
注 「感じない」は、「感じない」と「あまり感じない」を合計した割合

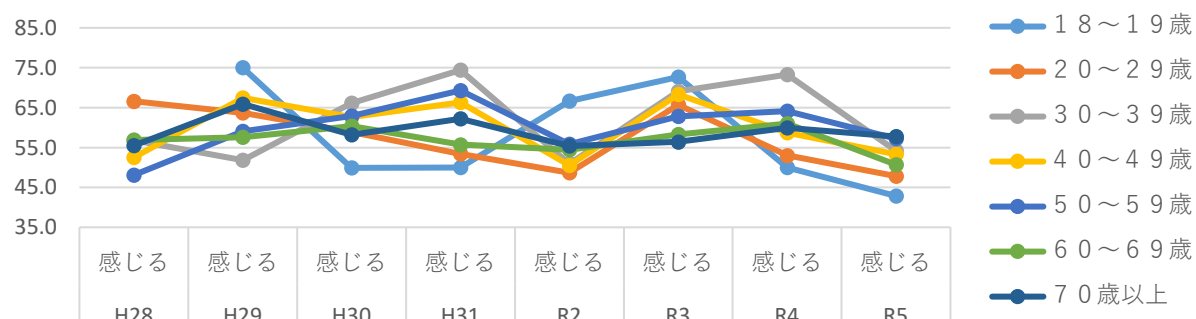
県央広域圏 年代別「地域の安全」の状況（単位：％）



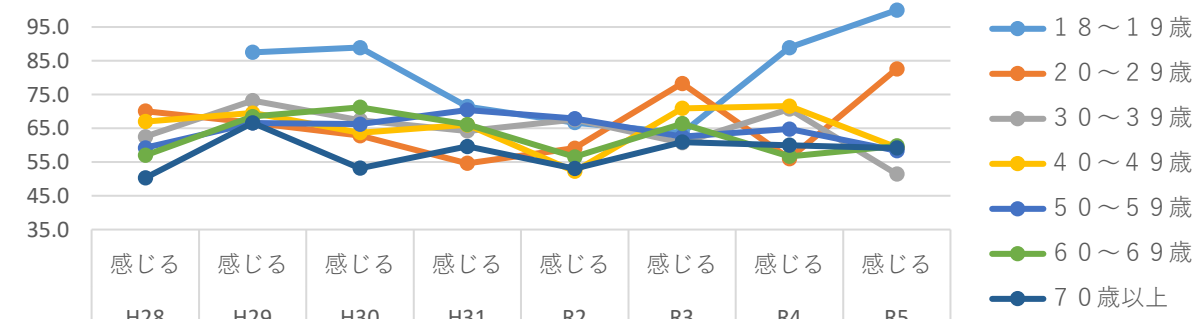
県南広域圏 年代別「地域の安全」の状況（単位：％）



沿岸広域圏 年代別「地域の安全」の状況（単位：％）



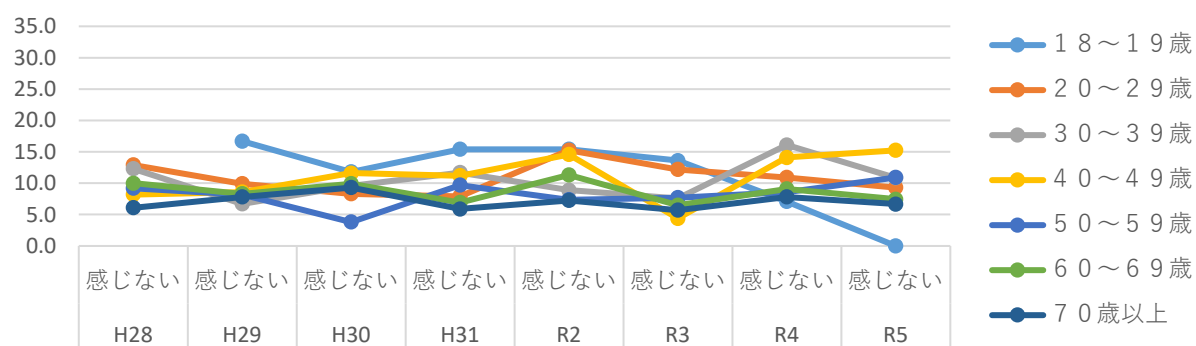
県北広域圏 年代別「地域の安全」の状況（％）



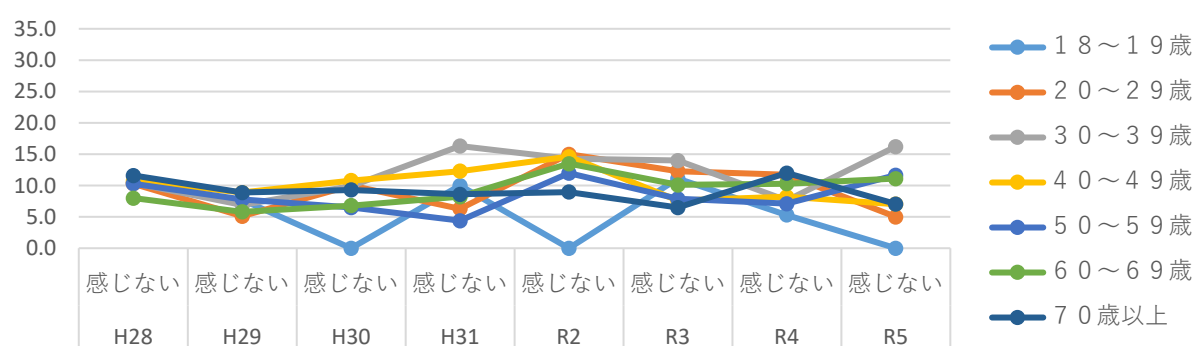
注 広域圏別年代別集計の県南、沿岸及び県北で18・19歳の件数が一桁になり、留意が必要

注 「感じる」は、「感じる」と「やや感じる」を合計した割合

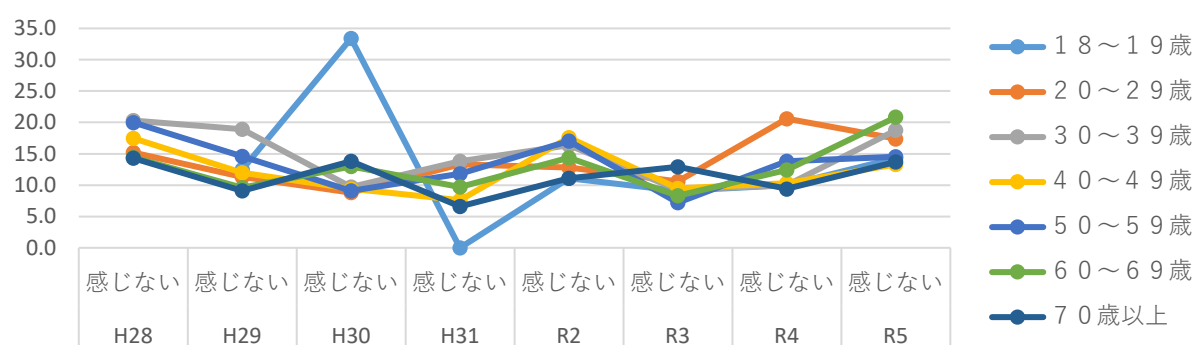
県央広域圏 年代別「地域の安全」の状況（単位：％）



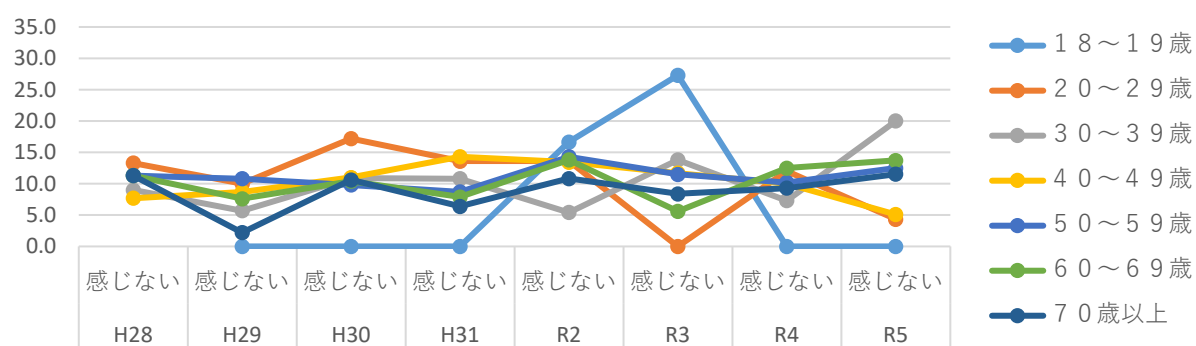
県南広域圏 年代別「地域の安全」の状況（単位：％）



沿岸広域圏 年代別「地域の安全」の状況（単位：％）



県北広域圏 年代別「地域の安全」の状況（％）



注 広域圏別年代別集計の県南、沿岸及び県北で18・19歳の件数が一桁になり、留意が必要

注 「感じない」は、「感じない」と「あまり感じない」を合計した割合

○分野別実感

⑧お住まいの地域は安全だと感じますか。

		H31	R 2	R 3	R 4	R 5
県計 (522)		3.89	3.78	3.92	3.87	3.86
性別	男性 (265)	3.93	3.85	4.01	3.95	3.97
	女性 (254)	3.84	3.67	3.79	3.79	3.74
	その他					
年代	18～19歳 (参考)					
	20～29歳 (25)	3.90	3.64	4.07	3.78	4.00
	30～39歳 (63)	3.69	3.76	3.83	3.90	4.02
	40～49歳 (104)	3.84	3.70	3.74	3.78	3.68
	50～59歳 (103)	3.83	3.72	3.90	3.98	3.87
	60～69歳 (99)	4.03	3.85	3.29	3.83	3.86
	70歳以上 (125)	4.03	3.80	4.06	3.91	3.89
職業	自営業主 (43)	4.21	4.16	4.07	4.16	4.09
	家族従業員 (8)	4.21	4.25	4.17	4.10	4.13
	会社役員・団体役員 (30)	3.50	3.90	4.18	3.90	3.93
	常用雇用者 (197)	3.90	3.73	3.91	3.94	3.92
	臨時雇用者 (78)	3.80	3.71	3.76	3.75	3.72
	学生＋その他 (26)	3.56	3.45	3.97	3.67	3.61
	専業主婦・主夫 (52)	3.98	3.63	3.72	3.62	3.72
	60歳未満の無職 (参考) (11)	3.38	3.40	3.29	4.00	3.40
可処分所得	60歳以上の無職 (76)	4.03	3.80	4.09	3.81	3.86
	100万円未満 (103)		3.70	3.72	3.80	3.76
	100万円以上300万円未満 (263)		3.66	3.82	3.84	3.79
	300万円以上500万円未満 (95)		4.08	4.11	4.00	4.04
	500万円以上700万円未満 (33)		3.84	4.33	4.00	4.09
	700万円以上1,000万円未満 (14)		4.21	4.22	4.38	4.21
	1,000万円以上1,500万円未満 (3)		4.75	4.00	4.00	3.00
世帯構成	1,500万円以上 (2)		3.00	5.00	3.50	4.00
	ひとり暮らし (62)	3.80	3.62	3.72	3.75	3.63
	夫婦のみ (110)	4.03	4.76	4.03	3.94	4.07
	2世代世帯 (216)	3.89	4.03	3.93	3.86	3.86
	3世代世帯 (76)	3.93	4.46	4.08	4.00	3.90
	その他 (29)	3.57	3.76	3.76	3.71	3.43
子の数	1人 (66)	3.82	3.69	3.68	3.76	3.69
	2人 (190)	3.93	3.83	4.00	3.90	3.90
	3人 (108)	3.95	3.95	4.05	3.96	4.01
	4人以上 (17)	3.79	3.90	4.16	4.16	4.00
	子どもはいない (128)	3.85	3.57	3.89	3.83	3.75
住まい	持家（一戸建て） (421)		3.79	3.98	3.90	3.90
	持家（集合住宅(マンション等)） (10)		3.40	3.75	3.80	3.80
	借家（一戸建て） (21)		3.57	3.68	4.18	4.00
	借家（集合住宅(アパート等)） (55)		3.72	3.79	3.74	3.49
	その他（社宅、寮、下宿など） (6)		3.64	3.56	3.71	4.00
居住年数	10年未満 (15)	3.76	3.58	3.94	3.69	3.46
	10～20年未満 (16)	3.96	4.04	3.75	3.86	4.07
	20年以上 (483)	3.89	3.76	3.95	3.88	3.86
広域振興圏	県央 (143)	3.95	3.90	3.96	3.94	3.87
	県南 (132)	3.80	3.83	3.96	3.91	3.93
	沿岸 (121)	3.94	3.84	3.93	3.87	3.90
	県北 (125)	3.86	3.52	3.82	3.76	3.73

() は、R5調査のサンプル数

分野別実感(8)「地域の安全」の分布(H31とR5)

(単位：人)

H31→ R5 ↓	5 感じる	4 やや感じる	3 どちらともい えない	2 あまり感じな い	1 感じない	0 わからない (該当しな い)	不明、未 記入、複 数回答	(計)
5 感じる	64	33	9	5	1	3	0	115
4 やや感じる	52	144	39	15	0	2	0	252
3 どちらともい えない	10	40	43	9	3	2	2	109
2 あまり感じな い	2	8	5	7	1	0	0	23
1 感じない	2	3	3	1	2	0	0	11
0 わからない (該当しな い)	1	2	4	0	1	0	0	8
不明 未記入 複数回答	1	3	0	0	0	0	0	4
(計)	132	233	103	37	8	7	2	522

- ① 実感が上昇した人(斜体かつ灰色セル) 114 人
H31からR5にかけて1段階以上上昇した人
(ただし、H31調査「1(感じない)」→R5「2(あまり感じない)」は除く。)
- ② 実感が変化なしの人(黒色セル、白文字) 260 人
- ③ 実感が低下した人(水玉パターンのセル) 74 人
H31からR5にかけて1段階以上低下した人。
(ただし、H31調査「5(感じる)」→R5「4(やや感じる)」は除く。)

分野別実感の回答理由

(8) 地域の安全

補足調査

ア 実感の変化別

分 野	上昇	横ばい	低下
R2	ア 犯罪の発生 イ 自然災害の発生状況 ウ 地域の防災体制(自治会・町内会の防災活動、消防団など)	ア 犯罪の発生 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の防止	ア 自然災害の発生状況 イ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など) ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
R3	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止(歩道の整備など) ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
R4	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など) ウ 犯罪の発生状況
R5	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 犯罪の発生状況 ウ 地域の防災体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラ)

イ 単純集計 (各調査年)

分 野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
R2	ア 犯罪の発生 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止 ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止 ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
R3	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 交通事故の防止(歩道の整備など)	ア 自然災害の発生状況 イ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など) ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)
R4	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止(歩道の整備など) ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)	ア 交通事故の防止(歩道の整備など) イ 自然災害の発生状況 ウ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) エ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)
R5	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 交通事故の防止(歩道の整備など)	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)